

with コロナ時代の事業推進①

六甲山上スマートシティ構想



2020年5月から推進している「六甲山上スマートシティ構想」。六甲山上の事業環境を整備し、快適で魅力的なビジネス空間の実現を目指しています。2021年3月には、山上のビジネス交流拠点として「ROKKONOMAD(ロコノマド)」がオープンしました。「共創ラボ」として位置づけ、創造的・集中的な作業に取り組みやすい環境に整備。利用企業だけでなく、周辺のワークスペースやホテル、カフェなどと連携した交流行事を通して、コラボレーションを創造します。



先端テクノロジーやデータを有する事業者による社会課題の解決を支援する「Be Smart KOBE」プロジェクトを六甲山上でこれまでに4件実施。先端テクノロジーの集積・活用によって、快適に遊び、住み、働く環境を創り出すことを目指しています。2020年度は、ドローンによる無人配送、顔認証技術を用いた六甲ケーブル利用者の見守りサービスなどの実証実験をサポートしました。また、バイタルデータ等の収集・分析を通じて六甲山上におけるワーケーションの効果を測定する実証実験を行いました。自然調和型オフィスやクリエイティブな人材・企業を誘致することで、テレワークやワーケーションなどのwithコロナ時代にふさわしい働き方を六甲山上から提案しています。

with コロナ時代の事業推進②

新たな事業にチャレンジするアーティストへの支援

コロナ禍のため活動自粛を余儀なくされたアーティストや、ライブハウス等の施設に対して継続して文化芸術活動ができるよう支援を実施。演劇・音楽・美術分野のアーティスト(145件548人)の挑戦を応援しました。たとえば、「活動機会を失った舞台関係者や休業縮小している店舗や施設がコラボした一人芝居やダンス公演」や「美術の対面式ワークショップに近い経験ができる趣向を凝らした絵本制作」など、withコロナ時代の新たな生活様式に応じた、新たな活動の場や表現方法が創り出されました。さらに、俳句の季語を共通題材として、複数のアーティストが制作した随筆、漫画、写真等を収めた冊子・CDの作成など、withコロナをきっかけに他分野とコラボレーションして創作に取り組んだ事例もありました。



CD付冊子  
『亀鳴く』



マキコムズ  
『まきこむ BOOK』



山本探偵事務所「謎劇」

## 都心三宮再整備①

# Kobe Mural Art Project

神戸市役所本庁舎2号館（2020年3月に閉鎖し解体予定）にミューラル（壁画）を描くプロジェクト。阪神・淡路大震災を乗り越えた2号館への感謝と敬意をかたちにし、また市民がアートを楽しみ、街がアーティストを育てていくような文化の醸成を目指して実現しました。計7組のアーティストが描き、子どもから大人まで気軽にアートを楽しめる街の風景へと変えました。



©HITOTZUKI, SAG ONE+VERO&KERO



©KAC

## 都心三宮再整備②

# Street Table 三ノ宮



「未来の都心にあっという間にみんなで育てるプロジェクト。一般の参加者と一緒に家具づくりやステージの飾りつけをして、JR三ノ宮駅南側に期間限定の公共空間ができました。食や音楽を楽しむイベントを開催し未来の都心に愛着を感じる人を増やしなが、神戸の玄関口にふさわしい居心地がよく、にぎわいのある空間を創っていきます。

©Haru Urabe

## 経営・デザイナー一体化推進事業



ものづくり中小企業がデザイン視点で経営を見直し、展開することで、企業価値を最大化させるためのプログラム。デザイナーや、デザイン思考による経営改革の専門家らがチームとなり、伴走型で参加企業を支援します。3年目を迎えた2020年度は、食品製造業・理美容業など多彩な9社が参加し、デザイン視点を取り入れた経営戦略や新事業創出に約7カ月間、取り組みました。

## デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) の取り組み



豊かなライフスタイルを提案する展覧会「イス・イス・サイズ展—もの選びに、新たな視点を。」(6-7月)など、ものづくりを体感する機会を提供したほか、オンラインを活用したレクチャーやゼミなど、コロナ禍を踏まえた企画に取り組みました。「ちびっこうべ2020」の地域や家庭を対象としたプログラムでは、子どもたちがデザイナーや建築家と一緒に、荒田地域福祉センターのロゴマークをデザイン。また、クリエイターの仕事を紐解きながらモノ・コトがどのように生み出されるかを紹介する映像を制作し、家庭で楽しめるようにしました。